

2016年4月27日

#### ベネズエラにおけるジカ熱問題の進展

2015年12月3日付の世界保健機関（WHO）による公式声明によりベネズエラにおけるジカ熱発症は公式に確認されている。ラテンアメリカではその環境条件により、ジカ熱、デング熱、チクングニア熱を媒介するネッタイシマ蚊が繁殖しやすい。

世界保健機関による全世界的な警告にもかかわらず、ベネズエラ政府はジカ熱問題を目立たないようにしており、ルイサナ・メロ（Luisana Melo）保健相の発表によれば、2016年3月末時点での同国におけるジカウイルスの感染症の疑い患者数は2万6千人で、それ以前の発表では319人が感染確認されており3名が死亡している。しかし、ベネズエラの公衆衛生学会の医師によれば、公的な発表数字は著しく低い傾向があるとして、疑い患者数を20－50万人と推測している。

防虫剤やジカ熱対処の医薬品の不足から、同国の状況は悪化しつつあり、ギラン・バレー症候群などのジカ熱に関連する疾病（疑い患者2,900名、発症確認700名）についても同様である。

ジカ熱について、ベネズエラではマスメディアによる予防キャンペーンは行われておらず、燻蒸消毒も殆ど行われていない。国家水上空間庁（INEA、航空水上輸送省の管轄）から具体的なウイルス対策についての勧告は出されていないが、燻蒸消毒が賢明な対策であり、主要港において実施可能で、詳細は代理店などを通じ確認できる。

GLOBALPANDI, S.A.